

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570200341		
法人名	社会福祉法人 さざなみ会		
事業所名	グループホーム さざなみ苑		
所在地	滋賀県彦根市城町二丁目13番3号		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570200341&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成24年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に支えあう中で、その人らしく、当たり前前の生活を支援していきましょう」を理念とし、季節に応じた行事やお誕生日会、地域の老人会事業などを通じて、楽しみのある、生き生きとした生活を過ごしていただけるようサポートします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

琵琶湖の畔、8000余㎡の敷地に法人が運営する特養、デイサービス、ショートステイと当事業所がある。運営推進会議に自治会長、老人会会長、民生児童委員2名の出席が常にあり事業所の特徴や内容等、報告と協議を行う一方、毎回、ヒヤリハットを報告し、敢てオープンにする事で事態を重視し事故予防に努めている。地域との関係は(非常に)親密で恒例になった法人主催の「さざなみ祭り」は地域も心待ちの行事で、模擬店やお楽しみ抽選会等盛り沢山で、大勢のボランティアや利用者家族が運営に協力し年々盛大になり沢山の参加を得ている。職員は利用者を人生の先輩と意識し、常に利用者よりやや低めの目線で声掛けや誘導をしている。利用者はそんな職員達に安心とやすらぎの気持ちを感じ1日の大半を居間でジクソーパズルに興じる者、唄を楽しむ者、居眠りと三々五々楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に支えあう中で、その人らしく当たり前の生活を支援していきましょう」という理念を掲げ、職員全員がその理念を共有し、理念の実践に向け、日々取り組んでいる。	職員は理念を実践する為、住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続けられる様、家庭的で思いやりのあるホームを目指しケアに努めている。理念に適った言動であるかをミーティングや会議で常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事や共生会(老人会)行事に参加している。春祭りには、みこしの休憩所に駐車場を開放し、地域の方々と一緒に祭りを楽しんでいる。近所の保育園との交流もあり、園児の運動会にも招待を受け、見学に出掛けている。	自治会や老人会に加入し、年4回実施の老人会行事にも参加している。事業所を老人会行事の集いの会場として提供を申し出ている。恒例の「さざなみ祭り」では地域の人々と広く親しく関わっている。	事業所の持つ専門性を活かし地域に対し働き掛けや情報の発信等を計画実施する事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県職員や企業の福祉の職場体験実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。状況・活動報告と共に、事故の報告も行っている。会議メンバーから質問、意見をもらうと共に、地域や行政の活動報告を伺い、情報交換を行っている。議事録を回覧し共有している。	会議は地域代表や家族会代表2名、行政が必ず出席し、事業所の活動や予定、自己、外部評価等を報告し協議している。地域からは行事予定等の報告を受け、意見交換をし事業所の理解を深める事に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。又、毎月介護相談員の受け入れをしている。	内部研修の講師に行政担当者を招いている。行政担当職員とは利用者の入居状況や介護保険法の改正に伴い予測される運営上の課題等、相談したり情報の交換をし運営に反映するように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心にマニュアルを作成すると共に、定期的に苑内研修を実施し、全職員が理解を深めている。日中、玄関の施錠はしていない。	『駄目!』等の禁止用語、断定的発言も言葉による拘束として捉まえ、言葉遣いや態度について会議やミーティングで話し合い意識し合っている。家族と「安全と拘束」について話し合い、拘束による弊害の理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成すると共に、苑内研修を実施し、全職員は虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めている。研修に行った職員は、研修受講復命書をまとめ、職員間で内容を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時、家族会の行事、運営推進会議の時に意見や要望を伺っている。又、契約時に苦情相談窓口を明記し、説明している。意見箱を設置している。	苦情や要望、相談は事業所の担当者及び第三者委員と外部公的機関の窓口を重要事項説明書に明記し入居時、家族に説明している。家族から得た意見はケース記録や連絡ノートに記載し会議に諮り対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等での職員の意見や提案を代表者や管理者は理解し、業務に反映させている。	職員の意見や提案はカンファレンス等の会議で協議し、必要に応じ法人全体で構成しているサービス向上委員会に諮り、反映に努めている。管理者、主任は適宜、職員と面談しコミュニケーションを密にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員と話せる機会をできるだけ多くするよう心がけている。勤務評価制度の導入に向け取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修を計画すると共に、苑外研修への参加も計画し、実施している。伝達研修も行い、ケアの質の向上を目指している。苑内での交換研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬グループホーム部会に加入し、合同研修および部会研修にも参加している。又、交換研修で他のグループホームの方々と交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学に来られた時、事前訪問時等に本人の思いを伺い、その思いを受け止め、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、家族が話しやすい環境をつくと共に、家族の思いを受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、最も必要と思われるサービスを見極め、他のサービスも含め調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、料理や生活習慣での工夫等教えていただいている。家庭的な雰囲気づくりと人間関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される前の情報を伺ったり、入居後は毎月の「さざなみだより」にて生活の様子をお知らせし、情報共有に努め、家族と共に本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前調査票に基づき入居後も、本人がこれまで行かれていた診療所、美容院、お寺参りへ出掛け、馴染みの関係が断ち切れないよう支援している。買い物や、老人会行事の際に知り合いの方と出会う機会も多い。	利用者にとってかけがえのない人や場所について職員は利用者毎の基本情報に地図等も含み詳細に記入し把握している。その情報を利用者職員は話しの中で話題にし、時にはその場所や店への送迎支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の会話を大切にし、お互いが支え合い、助け合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、経過を見守り、必要に応じて情報を提供したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当の職員を中心に、ご本人に希望を伺っている。困難な方に対しては、カンファレンスにより本人の日頃の行動、様子から思いをくみとるよう努めている。	本人が今、何をしたいかを理解する為、日々、生活を共にする利用者との関わりや声掛けの中から所作や表情で意向を把握し職員で話し合っってケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に、本人、家族から情報を伺っている。入居されてからも、その都度伺うと共に日常会話からも聞き出すよう工夫している。各自の生活スタイルを変えないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録に残し、特変のあった際は職員間で申し送りをし、情報を共有している。個々の入居者に応じた支援を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を基に、モニタリング及び課題を職員会議で話し合っている。それに基づきケアプランを作成している。計画書は郵送し家族の来苑時に今の希望や思いを伺っている。	利用者の思いや意向、家族の希望等、勘案し関係者で協議しケアマネージャーが計画書を作成している。利用者に状態の変化が無くても3ヶ月毎に計画書を見直し、家族に郵送し来苑時に承諾印を得る様にしている。	介護計画書に家族の承諾の記名捺印が確実に得られる為には郵送方法等の取り組みの工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話を記録に残している。個々に応じた記録用紙を作成し、使用している。又、ヒヤリハットを記入する事で気づきを持つよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設された特養の機能を活かし、座位式特殊浴の利用や、行事の参加ができています。又、特養の献立を参考に食事を作っている。嚥下困難な入居者については、特養の食事を利用し、食べやすい食形態の食事を提供している。食事に関する相談を特養の栄養士にし、指導を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院にご理解とご協力をいただき、地域の中で暮していると感じてもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医を決めていただいている。家族の希望により協力医へ切り替えた方もいる。緊急時や必要に応じ受診の付き添いを行っている。	従来からのかかりつけ医に受診している利用者は1名で他は家族の希望で協力医をかかりつけ医にしている。受診介助は家族が原則であるが事業所が支援する事もある。受診結果は家族と連携を密にし共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化や気づきについて、看護師に状況を伝え、指示を仰いでいる。日頃から相談しやすい環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院を設け、夜間でも対応していただけるよう連携している。入院時も情報交換や相談に応じていただき、退院後も良好な関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う方針を個別面談時、説明し同意を得ている。重度化が進んだ場合には、その都度面談を設け、現時点での気持ちを伺えるようにしている。全員がターミナルケアの研修を受講している。	重度化対応指針書を策定し契約時、家族に説明し同意書を得ている。重度化が進んだ時、変化の都度、家族の意向や事業所の対応を話し合い、記録に残しているが家族の確認欄はない。職員はケアを利用者の穏やかな終末を願い、あたり前として受け入れている	家族との話し合い記録は同意書として家族と交わす事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修にて、すべての職員は看護師の指導のもと、応急手当や緊急対応の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。	緊急連絡網、避難経路図等のマニュアルを整備し事務室に掲示している。消防署の指導の下、年2回の防災訓練を実施している。法人で防火防災委員会を編成し毎月、消火装置、器具の安全点検を実施している。	地域の協力を得た防災訓練の実施を運営推進委員会等で依頼し実現する事を期待する。地域の避難指定場所迄の避難経路の実地確認等を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内研修を行うと共に、入居者の人格やプライバシーを大切に言葉かけや対応をしている。	年間教育計画に人権やプライバシーの研修も組み入れ、全員が受講し共有している。あからさまな介護、誘導の声掛けで本人を傷つけていないか常に意識したケアに努めている。個人情報書類は事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表しやすい雰囲気や声掛けを心掛けている。言葉では十分に意志表示できない場合は、表情や反応から本人の思いをくみとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間を本人の希望や身体の状態に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に希望に応じ、馴染みの美容院へ出掛けている。職員と一緒に着る服を選んだり、準備をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物を入居者とし、ほぼ全員が本人の力に応じ、皮むきなどの下準備や食事作り、盛り付け等してもらっている。特養の献立を参考にメニューを決めたり、入居者の希望のメニューを取り入れたりしている。食事は、職員も同じ物を一緒にしている。食事の片付けの洗い物をしてもらっている。	翌日の食事メニューを利用者と相談したり特養のメニューを参考に献立している。食材の買い物は利用者と一緒にしている。調理が得意な利用者が作る丁子麩の辛子和えは皆が喜ぶ一品になっている。定期的な外食や季節の行事食を利用者は心待ちにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量の少ない方は、食べたものを記録すると共に申し送りをし、脱水にならない様、注意している。特養の献立を参考にし、メニューを決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の訪問指導を受け、口腔衛生に努めている。個々に応じ口腔ケア用品の用意、介助、見守りを行っている。毎食後の口腔ケアの実施も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンをつかみ、日々の状況に合わせ、トイレ誘導を行っている。失禁があった場合などは、本人の自尊心等に配慮し対応している。個々に合わせ、排泄表の様式の見直しを行っている。	排泄チェック表に基づき誘導の声掛けタイミングと利用者の所作、表情を注意深く観察して誘導する事で失禁等を抑える事に努めている。タイムリーなトイレ誘導で排泄の自立化を目指したケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に排便カウントを記録したり、便通に良い食材や飲み物を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴準備から1対1で対応し、気候に合った衣類をご本人に選んでいただくようになっている。入浴時間は決まっているが、お一人ずつの入浴なのでゆったりと入浴していただくよう心掛けている。	利用者は隔日毎に寛げる時間帯である、午後2時頃から5時頃迄ゆっくり入浴を楽しんでいる。脱衣室は暖房等温度調整をし利用者が快適に入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせ、体を休める時間を設けている。本人の居室で自由に休めるよう配慮している。なかなか寝付けない方には、側で話を聞いたり、温かい飲み物や湯たんぽなどで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、個別に処方されている服薬情報などで内容を把握し、説明文をファイルしている。服薬時は、本人が服薬できたかまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできるところを見極め、ゴミだしや洗濯物干し、食事の用意などしていただいている。個々にパズルや計算ドリル、俳句作成をされている。季節の行事やおやつ作りなど計画し、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域の人や家族の方と連携し、月参りや定期的な寺、神社への外出を支援している。食材の買い物やゴミだしなど職員と一緒に出掛けている。	気候の良い時期は琵琶湖畔や近くの夷神社への散策したり、特養の車両を利用し季節の花見や観光ドライブを利用者と職員は楽しんでいる。保育園や地域の運動会見学、老人会の行事参加等の外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、お金を持たれている方もいる。身の回りの品の購入の際に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りができるよう支援している。又、希望時はいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、時期に応じた掲示物から季節を感じてもらっている。春には居間から桜見物を楽しんでもらっている。室内の温度や光の調整をし、居心地よく過ごせる工夫を心掛けている。	陽光をいっぱい取り込んだ共用空間は利用者にとって居心地の良いお気に入りの場所です。1日の大半をこの共用空間で寛ぎ、過ごしている。利用者にとって生活の音や光、匂いを普通に感じ取って貰う様、意識を持っている。トイレ、廊下は清潔に保っている。	共用空間を近所の人や来訪者、運営推進会議メンバーに見て貰い感想や気付きを聞いて更なる快適な共用空間作りに心掛ける事を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとくつろぎスペースを設け、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を入居時に持ち込んでもらえるようにし、居住環境をなるべく変えず、安心して過ごせるようにしている。	居室は自宅で使い慣れた筆筒、机、化粧台を持ち込み、家族の写真を飾る等し、使い勝手の良い居室を創り出している。一部の利用者は仏壇を持ち込み、勤行や世話をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、福祉用具の活用、トイレや居室のタンスに張り紙をし、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		